

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成17年10月14日(金)6校時
児童 男7名 女9名 計16名
指導者 佐々木 香 理

- 1 単元名 大事なところに気をつけて読もう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」 本川 達雄

2 単元について

(1) 児童観

今年4月に実施したNRTの学力検査では、国語の「読むこと」は全国正答率が50%に対して、学年正答率は77.9%と全国比は146である。男子が79.1%と女子が76.9%の正答率が高い。説明文の読み取りにおいても、「順序を考えながら大体を読むこと」全国正答率44.4%に対し78.9%と高かった。

2年生の一学期の「たんぼぼのちえ」では、時間的な順序に気をつけて読むことを学習してきているが、ここでは生きものの違いに応じた共生の方法を順序だてて説明した文章を読みとる学習をする。子供たちは、大体の内容をとらえていても、文末まで注意して読み取ったり、問いに合う答えを考えたりする力がやや不足している。本教材の登場する生き物のうち、2種類の生き物についての説明が混じっている文章の中からそれぞれに関することを序した指示語、文末に気をつけながら読み取っていくことは難しいと思われる。一学期は、読み取りの時にサイドラインを引いたり、書き込みをしたりすることで、言葉への着目するように指導してきた。

本単元でも、文章を正しく視写することや書き込みの活動を取り入れることで、より正しい読み取りへとつなげていきたい。

(2) 教材観

第1学年及び第2学年の「読むこと」の指導目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる」である。また、本教材の中心となる指導事項は「時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」「語や文のまとまり、内容のまとまりを考えながら声に出して読む」である。

日頃あまり馴染みがない海の中の共生について述べた説明的文章であり、「たがいに、やく立つようにかかわり合って、くらしている」という言葉が、教材全体のキーワードとなっている。

1年生の教材「じどう車くらべ」では、大きなまとまりに気を付け、文末表現を意識した学習をしてきた。本教材では、文末表現と接続語に意識させ、読み取りの視点を明確にしながらまとまりごとに学習を進めていく。

文章の展開においては、「大変なことになります。」「びっくりしています。」と読み手をひきつけ、「でも、・・・ありません。」と説明する書き表し方が工夫されている。生きもののかかわり方について「見てみたいな。」「不思議だな。」「そうだったのか。」のような感想をもち、説明の順序に気をつけながら大事なところに気をつけて読むことを狙った教材である。教材文とともに鮮明な写真が使われており、書かれている情報を十分に補い興味をかきたて、学習活動を進める上で役立てていくことができる。

文中に出てくる4種類の生き物の体の特徴、相手のためにどのような役立つことをしているかを接続語や指示語に気をつけて読み取り、かかわり合いという観点でまとめることで、二者の関係を正しく読み取る力を育てることができる。

さらに、学習の発展として生き物についての読み物に興味を持ち、それに関する本を読む活動へとつなげていくことができる。

(3) 指導観

4種類の生き物、2つのかかわり合いを明確にするため、どんな体の特徴、どんなことをする、どんな得になるかをしっかり押さえ、どのようなお互いのかかわり合いとなっているか読み取らせていきたいと考える。

「つかむ」段階では、まず反復Aのテストを通して、一学期の説明文「たんぼぼのちえ」で学習した関連内容（わけを考え、順序を正しくとらえる）の問題の定着を確かめ児童の実態を把握する。合わせて、自分のノートを振り返り、説明文の学習の進め方を確認しておきたい。次に、普段あまり見ることができない海の中を、以前学習した「スイミー」を想起し、ビデオを見ながら十分イメージさせておく。

「ふかめる」段階では、イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚の、2つのかかわり合いを読み取るために、ペープサートを使い、主語と述語の関係を確認しながらそれぞれの特徴と利益になることを抑える。また、より2種類のかかわり合いを明確にするため、「なかよしカード」を使い、吹き出しに、相手への感謝の言葉を書く活動を取り入れる。大意をつかむという点で確かな読み取りへの結びつくとともに、評価に生かしていくことができると思われる。

「広げる」段階では、発展として図鑑や理科的な読み物を使い、普段あまりなじみのない生きものに目を向けさせていきたい。「生きものカード」を作成して紹介しあうことで、自然への興味関心を高めたいと考える。最後に反復Bを通して、本単元で培った力がどの程度達成しているかを確認し、今後の個別指導に活用していく。

単元全体を通して個人カルテを用いる。これは、一単位時間毎の一人一人の評価を記入し、次時の指導へ生かすものであり、指導と評価の一体化へつなげるものである。

3 単元目標

- (1) 海の生き物の共生や、説明文の組み立てに興味を持って読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 「サンゴの海の生きものたち」が互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読むことができる。
(読むこと)
- (3) 語や文としてのまとまりを考えながら声に出して読むことができる。
(読むこと)
- (4) 文中における主語と述語との関係、敬体で書かれた文章の文末表現に注意することができる。
(言語事項)
- (5) 学習の後、「生きものカード」作成し、お互いに紹介し合うことができる。
(書くこと)

4 単元の指導と評価規準(11時間扱い)

過程	時	学習活動(指導内容)	評価規準<評価方法>		
		「サンゴの海の生きものたち」	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> * 反復A(読イ) ・「わけを考え、順序を正しくとらえる問題」に取り組む。 ・「たんぼぼのちえ」の学習ノートを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習内容を想起し問題に取り組み、学習ノートを振り返ろうとしている。 <p><プリント></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様子をまとめ、カンガルーの赤ちゃんが大きくなる順番が分かっている。 <p><プリント></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「たんぼぼのちえ」で学習した接続語と文末表現を正しく使っている。 <p><プリント></p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題名想起をする。 ・ 「サンゴの海の生きものたち」を読んで、初発の感想を書いて発表する。 ・ 4枚の写真やビデオをみて、サンゴの海についてのイメージを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海に住む生き物たちに興味を持ち、初めて知ったことや不思議に思ったことなどを発表して、カードに書こうとしている。 <p><発言・カード></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章全体から、感じたことを簡潔に書いている。 <p><カード></p>	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「サンゴの海の生きものたち」を読んで、学習のめあてが分かり、見通しを持つ。(~ 段落) ・ 学習の最後に「生きものカード」を書くことを知る。 ・ 新出漢字の書き方の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いであることと、これからの学習課題をつかもうとしている。 <p><発言・観察></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわりであることが分かっている。 <p><発言・ノート></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の名前を正しくとらえている。 ・ 新出漢字を丁寧に書いている。 <p><ノート></p>
ふかめる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。(~ 段落) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取るようとしている。 <p><評価カード></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクの触手とクマノミの出す音を正しく読み取っている。 <p><発言・ノート></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「誰の何で」と「誰がどうする」を、正しくとらえている。 <p><発言・ノート></p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取る。(~ 段落) なかよしカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クマノミがイソギンチャクの中にすんでいる訳を考えようとしている。 <p><評価カード></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクには毒があり、クマノミは音を出してほかの魚を追いかい、お互いに守り合っていることを読み取っている。 <p><発言・ノート></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「誰が、誰のためにどうする」の文法に気を付けている。 <p><発言・ノート></p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめる。(~ 段落) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめるようとしている。 <p><評価カード></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかわり合っている生き物の特徴を知り、その特徴を生かして互いに役立っていることを読み取っている。 <p><発言・ノート></p>	

	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取る。 (~ 段落) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラが そうじ魚と呼ばれている訳について読み取る。 <評価カード> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラが 大きな魚の口の中をきれい掃除することを読み取っている。 <発言・ノート> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「でも、～ません。」の文末表現をとらえている。 <発言・ノート>
本時	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取る。 (~ 段落) ・ なかよしカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラが 大きな魚に食べられない訳について読み取る。 <評価カード> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな魚は、ホンソメワケベラが口の中をきれい掃除してくれると知っていることを読み取っている。 <発言・ノート> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助詞や文末表現に注意している。 <発言・ノート>
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめる。 (~ 段落) ・ 「サンゴの海の生きものたち」のかかわり合いを確認する。 (段落) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめる。 <評価カード> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かかわり合っている生き物の特徴を知り、それを互いに読んでみる。 <発言・ノート> 	
広げる	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物の本を探して読み、「生きものカード」に書いて紹介しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にあつた本を探して、「生きものカード」を書こうとしている。 <観察・カード> 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体の特徴をとらえ、「～です。」の表現を正しく使っている。 <カード>
	11	<ul style="list-style-type: none"> * 反復B (読イ) ・ 「説明されている順序を読む問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを想起し、課題解決に取り組む。 <プリント> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段落に気をつけて、それぞれの動物の体をきり方取っている。 <プリント> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「何が、どうする」の表現に気を付けている。 <プリント>

5 本時の指導(9 / 13)

(1) 授業の構想

前時で押さえた両者の体の特徴を確認し、相手に得になっていること、自分に得になっていることを文章から見つけて線を引く。そこから、相手へのお礼の言葉を吹き出しに書かせ、かわり押しをする。

(2) 目標(本時のねらい)

ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを読み取ることができる。

(3) 展開

一人学び

キーワード

段階	学習活動	・指導上の留意点 (評価) <評価方法>
見通す5分	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習課題をつかむ。 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて考えましょう。	・ホンソメワケベラが、大きな魚をきれいに掃除していたことを想起させる。 ・学習課題によって、本時で何ができればよいのかを明らかにする。 学習課題がわかったか。 <観察>
ふかめる35分	3 第7段落から第9段落を音読し、ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳が書いてあるところを見つけてサイドラインを引く。 ・リレー読みをする ・一人読みをする 4 ホンソメワケベラが大きな魚に食べられない訳を詳しく調べて発表し合い、読み取る。 ・訳の部分を確認し、視写をして書き込みをする。 5 ホンソメワケベラと大きな魚のお互いの利益となる部分を比べ、かかわり合いを考える。 大きな魚は、ホンソメワケベラのおかげでどんなよいことがあるのでしょうか。ホンソメワケベラは、大きな魚のおかげでどんなよいことがあるのでしょうか。 6 一人学びでお互いよい点をまとめる。 ・「なかよしカード」にお礼の言葉を書いてみましょう。 ・キーワードを確認する。 「ホンソメワケベラ」「大きな魚」 「きれいにそうじしてくれる。」 「食べものになる。」	大きな魚が、ホンソメワケベラを食べない理由が書いてあるところに、サイドラインを正しく引くことができたか。 <書く> ・「大きな魚たちは、～知っているからです。」の訳を示す文末表現に着目させる。 ・訳について書いてある部分を視写し、書き込みから読み取りを深めていく。 ・ペープサートを使い、主語と述語を確認する。ホンソメワケベラが食べられない訳を押さえることができたか。 <発言・ノート> ・前時のそうじについて触れ、大きな魚を主語にして考えさせる。 ・教師がペープサートを使いながら、主語と述語を明確にし、お互いによい点があることを気付かせていく。 お互いへの感謝の言葉を、それぞれの立場になって書くことができたか。 A 線を引いたり、確認したりした言葉の中から、キーワードと自分で必要な言葉を抜き出し、お互いに助け合っている言葉を書いている。 例・大きな魚「いつも口の中や体についた虫をきれいに掃除してくれてありがとう。気持ちがいいよ。これからも助け合っていこうね。」 ・ホンソメワケベラ「こちらこそ助かるよ。いつも食べ物ありがとう。」 B キーワードをもとに、たいたいの内容を押さえたお礼の文章を書いている。 例・大きな魚「口の中や体の中についでいる虫を取ってきれいにしてくれる。掃除をしてくれてありがとう。」 ・ホンソメワケベラ「食べ物をくれてありがとう。」 Cへの支援 キーワードのつながりを確認し、「大きな魚」から「ホンソメワケベラ」にお礼の言葉を書く。

	7 お互いへの感謝の言葉をまとめて発表する。	・ A、Bの内容から、2名ぐらいずつに発表させ、自分の考え（まとめ方）と比較させる。
振り返る5分	8 自己評価を記入し、発表する。 9 次時の学習内容を知る。	進んで授業に参加することができたか。 ホンソメワケベラが、大きな魚に食べられない訳をとらえることができたか。 今日の感想を書くことができたか。 ＜自己評価カード＞ ・ ホンソメワケベラと大きな魚の関係を今日の「なかよしカード」をもとにまとめていくことを確認する。

6 板書計画

大きな魚

体や口の中についた
むしをとって、きれいに
そうじしてくれるの
を知っている

・ そうじ魚

ホンソメワケベラ

きもちいい
きれいになる
びょうきにならない

えさがたくさんある
あんぜん

とった虫が
食べものになる

かかわり合い

こうして、ホンソメワケベラと大きな魚は、たがいにたすけあっているのです。

視
写

サンゴの海の生きものたち
ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて考えましょう。

7 自己評価カード

一 いっしょうけんめいに考え、すすんではつげんすることができましたか。

A よくできた B だいたいできた

C あまりできなかった D できなかった

二 なかよしカードにおれいのことばを考えることができましたか。

A よくできた B だいたいできた

C あまりできなかった D できなかった

三 ひとことかんそうを書きましよう

8 教材分析

「サンゴの海の生き物たち」	
言語事項	<p><キーワード> かかわり合い やくに立つ イソギンチャク しょくしゅ どく クマノミ えき 音 クマノミ そうじ そうじ魚 大きな魚 食べ物</p> <p><指示語> それら その これで これが この</p> <p><接続語> でも だから こうして このように</p> <p><文末表現> どんな、・・・しているのでしょうか。<問いかけ> ～います。～です。<事実> ～のです。<断定> でも・・・ありません。～ません。<否定> ～からです。<理由></p>
話の順序	<p>サンゴの海には、互いに役に立つようにかかわり合って暮らしているものがある。</p> <p>どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのか。</p> <p>イソギンチャクの細長い触手の間に、クマノミが浮かんでいる。</p> <p>イソギンチャクの触手には毒の針があるが、クマノミの体は、ねばねばした液で覆われているのでさされない。</p> <p>イソギンチャクの中にいれば、クマノミは安全だ。</p> <p>クマノミは、魚が近づいてくると音を立てて追い払う。イソギンチャクを食べる魚も追い払ってしまう。</p> <p>ホンソメワケベラは、サンゴの海にすむ美しい魚の一つだ。</p> <p>大きな魚たちは、ホンソメワケベラがきれいに掃除してくれるのを知っている。</p> <p>ホンソメワケベラは、そうじ魚と呼ばれている。掃除をしてとった虫が、食べ物になる。</p> <p>サンゴの美しい海では、たくさんの生きものたちが、さまざまにかかわり合って暮らしている。</p>
文章構成	<p>問題提起</p> <p>問題の解明</p> <p>問題の解明</p> <p>まとめ</p>
筆者の思い	<p>サンゴの海には、互いに役に立つようにかかわり合って暮らしている生きものたちがいる。自然の世界では、異なる種類どうしであっても互いに助け合って暮らしていることを知り、新たな発見や共感の喜びを知ってほしい。</p>
発展	<p>学習したことをもとに、図書室で生きものについて調べ、「生きものカード」を書く。</p>

9 個人カルテ

「サンゴの海の生きものたち」 個人カルテ

子ども像

名前

2種類の生き物の互いの利益になることを正しく読み取り、かかわり合いについて考え、分かったことを自分の力でまとめる。

実 態	<ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物への関心 ・文章の読み取り ・音読（正確に大きな声で読める） ・漢字を書く力 ・文字を書くスピード ・作文 		
初 発 の 感 想			
学 習 の 実 態	単元の評価規準表による 読むことにそった評価	評 価	その他
	文章構成について理解している。（反復 A）	A B C	
	内容とらえて初発の感想を書いている。	A B C	
	話題提示文をとらえている。	A B C	
	イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取っている	A B C	
	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取っている。	A B C	
	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いをまとめている。	A B C	
	ホンソメワケベラのそうじの様子について読み取っている。	A B C	
	ホンソメワケベラが、大きな魚に食べられないわけを読み取っている。	A B C	
	ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いをまとめている。	A B C	
	生き物の本を探して読み、みんなに知らせたい生き物について「生きものカード」に書く。	A B C	
単 元 終 了	<ul style="list-style-type: none"> ・「サンゴの海の生きものたち」単元テスト ・「説明文・・・体をきれいにするどうぶつ」ワークテスト（反復 B） ・生き物の図鑑や読み物に興味を持ち、読んでいる。 		点 点 A B C